

## 葉山町子ども・子育て会議 中間報告（原案）へのご意見

## 1 体裁（章立て、構成など）について

※ 事前にいただいたご意見等を事務局でまとめたものです。

※ ご意見は事務局で内容を確認し、適宜分類しています。

整理番号	質問事項	対応案
2-1-1	審議されたことの報告で、大雑把に言えばこの3点で止むを得ずと思っています。	原案の章立て、構成を元に、第4回会議で議論します。
2-1-2	3章「子育ての担い手」という表現がわかりにくいと思います。子育ての担い手と聞くと、親・家族・親族をイメージしますので、「保育・子育て支援等の担い手」とした方がわかりやすいのではないのでしょうか。	「保育・子育て支援等の担い手」に修正します。
2-1-3	章立て、構成はよいと思います。	原案の章立て、構成を元に、第4回会議で議論します。
2-1-4	報告書に目を向けてもらうために、子ども・子育て等に関する「シンボルマーク」や「キャラクター」「キャッチフレーズ」を入れて、明るいイメージのものにしたらいかがでしょうか。これらは、最終報告にも使えると思います。	サンプルを用意し、第4回会議で検討します。



葉山町子ども・子育て会議 中間報告（原案）へのご意見

2 内容（他に盛り込むべきもの）について

※ 事前にいただいたご意見等を事務局でまとめたものです。

※ ご意見は事務局で内容を確認し、適宜分類しています。

整理番号	質問事項	対応案
2-2-1	3頁の審議会の構成で、委員の数も入れた方がよいのでは。	反映します。
2-2-2	これまでの話し合いの内容、資料としてアンケート結果などを盛り込んだほうがよいと思います。	反映します。
2-2-3	<p>子育ての担い手の確保について ファミリーサポートセンター事業について、議論を進めたのでしょうか。祖父母へのアプローチが必要とありますが、声をかける程度だったと記憶しています。 ファミサポを子育ての担い手の柱のように記載されていますが、子育ての担い手として、この中間報告に盛り込む内容ではないと思います。（会議でもそのように発言したように記憶しています。） ファミサポは、いろいろある地域子育て支援事業の1つで、支援会員さんは有償とはいえボランティアです。葉山町の子育ての担い手をボランティアに頼るといえるのはいかなるものでしょうか。その前に、葉山町として保育・子育て支援に関わる人材を育成し活用するのか今後議論を進めていくのが、この会議の趣旨だと思われま</p>	<p>次のとおり修正します。 ファミリーサポートセンターについては、人数の不足の話は出ていたもので、事実として現状と課題に記載します。 祖父母世代へのアプローチは、ファミリーサポートセンターだけでなく広い文脈で話が出ていたので、表現を修正します。</p>

葉山町子ども・子育て会議 中間報告（原案）へのご意見

2 内容（他に盛り込むべきもの）について

※ 事前にいただいたご意見等を事務局でまとめたものです。

※ ご意見は事務局で内容を確認し、適宜分類しています。

整理番号	質問事項	対応案
2-2-4	<p>また子育て支援団体の立場から「町とも連携があまり行われていないように感じられます」という表現ですが、→主観的な表現で分かりにくいです。町としては連携しているつもりだが感じられないということでしょうか。</p> <p>「民間の子育て支援団体との連携を検討する」について</p> <p>→各地でいろいろな形で連携した事業が行われています。子育て支援団体の当事者性を活用した様々な連携が各地で進んでいます。市民との協働が遅れている葉山町では、ただ検討するのではなく連携を進めるプロセスを具体的に検討することが必要なのではないのでしょうか。ご検討をお願いします。</p>	<p>反映します。</p>
2-2-5	<p>子どもの遊び場について</p> <p>既存、既存とありますが、まずは安全性、有効性、有用性、利便性などから根本的見直しが必要だと思います。</p> <p>たくさんある公園という名の空き地、町民に知ってもらったところで誰も行かなければ無意味です。</p>	<p>一部反映します。</p>
2-2-6	<p>放課後の居場所について</p> <p>学童クラブと全児童対象の放課後クラブは完全に分けて考えるべきです。そうしないと学童クラブの有料無料の話は進まないと思います。</p>	<p>今回の報告では、切り分けて記述したつもりです。今後の検討で参考にさせていただきます。</p>
2-2-7	<p>子育ての担い手について</p> <p>幼児については担い手だけが問題だったのでしょうか。ハード面（保育園そのもの、子ども広場ほか）の検討も必須と感じます。</p>	<p>広場事業については、現状の確認にとどまったため、今回は盛り込んでいません。</p>

葉山町子ども・子育て会議 中間報告（原案）へのご意見

2 内容（他に盛り込むべきもの）について

※ 事前にいただいたご意見等を事務局でまとめたものです。

※ ご意見は事務局で内容を確認し、適宜分類しています。

整理番号	質問事項	対応案
2-2-8	<p>今回の中間報告では3つの分野に絞られており、確かに議論された問題の中でも皆さんの関心が集中したものと記憶していますが、他にも話し合われた内容は多岐にわたり、どれも大切なものであったと思います。すべてを盛り込むのは難しいと思いますのでやむを得ないと思いますが、今回の報告に含まれない内容についてはどのように取り上げられていくのか、と少し不安と疑問が残ります。</p>	<p>新制度の準備に関する内容は、随時参考にしています。その他の意見については、最終報告に反映できるか検討します。</p>
2-2-9	<p>3～5の項目について、「現状と課題」「求められる方向性」の後でもよいので、「こんな意見もありました」の項目を作って、少数意見や発想の大転換などを例示するのも面白いのではないのでしょうか。</p>	<p>第4回会議で検討します。</p>
2-2-10	<p>5の「子育ての担い手の確保について」は切実な課題です。保育士の確保（人数と質の両方からの）は、大学や専門学校だけでなく中学校や高等学校も含めた教育機関と、具体的な養成システムを立ち上げるくらい取り組みが必要になると思います。</p>	<p>今後の取組みの参考にさせていただきます。</p>



葉山町子ども・子育て会議 中間報告（原案）へのご意見

3 その他自由意見

※ 事前にいただいたご意見等を事務局でまとめたものです。

※ ご意見は事務局で内容を確認し、適宜分類しています。

整理番号	質問事項	対応案
2-3-1	町長あての報告だが、当然、町民にも開示すべきと考えます。開示時期はニーズ調査集計後に。	町長に報告した後、町のホームページに掲載する予定です。
2-3-2	前回の会議で正直どうまとまるか不安でしたが、大変よくまとまっていると思います。会議で明らかになってきた問題の提起ができていると思います。	第4回会議で議論して、さらに調整を行います。
2-3-3	町民の一人ひとり、委員の一人ひとりが今抱えている課題、関心事は異なり、どれも取り組まなければならないことであるものの、それらの本当のニーズはどこにあるのか？問題は何か？を考えると、制度や物理的な問題だけではなく、「人」「心」の問題大きいと思えてきます。	今後の取組みの参考にさせていただきます。
2-3-4	形を整えることも大切ですが、今ある資源の中で、またそれを生かして、いかに多様に臨機応変に対応していくか、それはどこまで可能か？を深めていくことが大切のような気がします。	今後の取組みの参考にさせていただきます。
2-3-5	「遊び場所」の問題などについても、町内にはたくさん遊び場はあるのにもかかわらず、そういった意見が出るのは、場所の問題ではなくて、「友だちと出会える遊び場」がないとか、「遊べる遊具がたくさんある公園」がないなど、もっと工夫や努力をすればクリアできる問題ではないかと思えます。それをどう発信していくか…。小学生にしても、子どもたち自身は「遊び場がない」と感じているのでしょうか？	今後の取組みの参考にさせていただきます。

葉山町子ども・子育て会議 中間報告（原案）へのご意見

3 その他自由意見

※ 事前にいただいたご意見等を事務局でまとめたものです。

※ ご意見は事務局で内容を確認し、適宜分類しています。

整理番号	質問事項	対応案
2-3-6	いずれにしても、町内で活動している民間の支援団体は、いつでも町の、皆さんの役に立ちたいと思って、微力ながらも身近なところで活動しているのですから、活用しない手はないと思います！	今後の取組みの参考にさせていただきます。



平成26年1月24日  
内閣府子ども・子育て支援新制度施行準備室

## 「子ども・子育て支援新制度」シンボルマークについて

今般、平成27年4月の本格施行を予定している「子ども・子育て支援新制度」を広く国民に知っていただくため、シンボルマークを作成いたしました。今後、新制度に対する国民の理解と共感を深めるため、広報啓発活動等に活用していきます。



## ○ 制作コンセプト

子ども・子育て支援新制度は、質の高い教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業を実施し、妊娠、出産から育児までの切れ目ない支援を行うことを通じて、全ての子どもが健やかに成長するように支援するものです。

メインコピーの「すくすくジャパン！」には、新制度において充実を図っていく支援によって、子どもたちにすくすく育ってほしい、ママやパパにも親としてすくすく育ってほしい、という思いが込められています。また、サブコピーとなる「みんなが、子育てしやすい国へ。」には、行政をはじめ社会全体で誰もが安心して子育てができ、「子どもの最善の利益」が実現される国にしていこう、というメッセージが込められています。

ビジュアルは、新制度の中心である子どもたちによる「鼓笛隊」をモチーフとし、元気に演奏する個性あふれる子どもたち(乳児・幼児・小学生)の姿により、新制度への共感や、親しみを感じていただけるものとなりました。メインコピーのロゴとイラストを描いてくださったのは、絵本作家として活躍されているのぶみさん。新制度の意義にご賛同いただき、無償でご協力いただきました。

## ○ シンボルマークの使用について

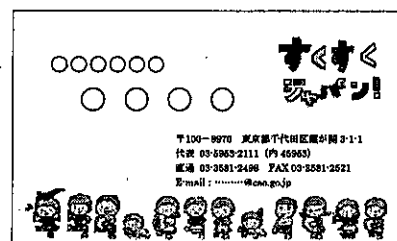
シンボルマークは、営利目的など作成趣旨に反する使用はできません。「子ども・子育て支援新制度シンボルマーク使用要領」に基づく手続きを行っていただいた上で使用していただけます。

なお、地方公共団体が、マークの目的に沿った使用を行う場合については、使用許可の申請手続を省略することができます。ただし、使用に当たり、使用する日の14日前までに、所定の様式により担当参事官宛てに報告してください。

詳しくは、子ども・子育て支援新制度ホームページをご覧ください。

URL : <http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/symbol/index.html>

### <使用例>



## ○ リンクバナー

シンボルマークを利用したリンク用バナーを公開しています。

URL : <http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/symbol/link.html>

子ども・子育て支援新制度ホームページへのリンクにご活用ください。

